⑪-2授業改善推進プラン（中間改善計画）

小31　町田市立小山田小学校

学力調査等の状況

・国語・算数の両教科において、都や全国の平均正答率を下回っている。特に国語については、東京都と比較して10％以上正答率が低い。
・算数では、「数と計算」の領域で最も正答率が下回っていたのをはじめ、「変化と関係」「図形」「データの利用」についても平均正答率が下回った。

見えてきた課題

・国語では、自分の考えを書いたり、自分のことと結び付けて考えたりすることへの苦手意識が感じられる。
・算数では、計算問題を正確に解くことができない。また、伴って変わる2つの数量について注意深く考察することが難しい。

授業をデザインする8つの取組について

ICT機器の活用	児童が主体的に学習に取り組んだり、思考の手助けになったりする、より効果的なICT機器の活用方法を考え、取り入れるようにする。
見通しをもたせる導入	児童が自分で「やってみたい」「挑戦したい」と思ったり、学習の進め方の計画を自分で立てたりできるような導入の工夫をする。また、児童全員がスムーズに自力解決に向かえるように、導入時に丁寧な共通理解を図る。
価値ある対話の共有	ねらいをはっきりとさせ、新しい考えを、みんなで生み出す活動を設定する。また、隣や近くの友達に限定せず、広く他者と意見を交流する場を設ける。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	○基本的な話の聞き方を身に付け、大事なことを落とさずに聞くことができるようにする。また、話型を示すことで話し方の定着を図る。 ○対話的な学びの場として、ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、自分の考えをもつことができるようにする。 ○図書館を有効に活用するとともに、読み聞かせや朝読書を通して、広く読書に親しむことができるようにする。	○「聞き方名人・話し方名人」などの掲示物を教室内に掲示し、指導を続けていく。 ○文章の読み取りの時間を十分に確保し、言葉を使った文章を書く機会を設定する。モデル文なども活用させる。 ○自分の考えや意見をもたせる発問を増やし、分かりやすく友達に話をしたり、発表したりする習慣を付けさせる。 ○週に一度、図書の時間を確保し、言葉や文章を楽しむことができるようにする。	○漢字練習を継続的・反復的に行い、正確に漢字が書けるようにする。 ○分からない言葉を調べる習慣を付け、語彙を増やす。 ○自分の考えをもち文章で表現できるようにする。	○漢字練習を反復的に行い、小テストによって習熟度を確認する。 また、家庭学習で行っている音読を授業中に積極的に取り入れ、読みの確認を行う。 ○「書くこと」を扱う単元において、主語と述語が対応するよう、修飾・被修飾の関係が適切なものになるよう指導する。
社会科	○グラフや表を読み取る技能を身に付け、知識と結びつけたり、理解を深めたりできるようにする。 ○新聞作りやパンフレット作りなどの具体的な活動を通して、考えを自分の言葉でまとめることができるようにする。 ○地域の特性を生かしながら、学習の計画を立て、学びを深めることができるようにする。	（中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点） ○地域めぐりなどを通して、社会との関わりの充実を図っている。	○「わたしたちの町田」に出ている表やグラフ、地図帳の読み方は授業の中でも計画的に取り扱う。 ○学習して気付いたことを知識と結びつけて、自分の言葉でまとめられるようにする。	○ICT機器を活用して、資料（絵や写真、グラフや表）を提示し、そこから分かることをまとめられるようにする。 ○資料から分かることを発表する機会を多く設け、どの資料のどの部分から何が分かるのかを明確にするようにする。
算数科	○基礎的な内容の指導、活用する力の指導など単元計画に位置付け、基礎的内容の定着を図るとともに思考力・表現力をはぐくむ。 ○東京ベーシックドリルの診断テストを活用し、習熟の状況や到達度を確認しながら授業を進め、学習内容の定着を図る。 ○準備テストやワークテスト、東京ベーシックドリルなどを活用して児童の実態をつかみ、個に応じた指導に活かす。 ○毎時間始めの3～5分既習事項の復習を行う。	○具体物を使って測定したり、身近なものを測定したりすることで量感を養う。 ○プリントや計算カードを使って、繰り返し計算練習をする時間を確保する。 ○文章題で立式の意味をきちんと理解できるように、教科書の挿絵を使ってどんな場面か話し合わせたり、簡単な絵や図を描かせたりする。	○解き方を全体に伝える場を設定し、言葉や図、式などを用いて説明させる。その際、ノートや黒板だけでなく、ICT機器の活用も行っていく。 ○基礎的・基本的な内容を理解し、応用する力をつける。 ○授業の振り返りの中で、分かったことやできるようになったことを、適切な言葉で表現できるようにする。	○ICT機器を活用し、作業方法や実演の映像を提示することにより、学習活動を焦点化し、学習課題への理解を深めるようにする。 ○割合や単位量の関係を捉える問題を苦手としている児童に対して、式の意味を数直線や図で表して関係を捉えさせるようにする。 ○計算問題などの基礎学習を反復して行い、正確に問題を解くことができるようにする。
理科	○単元の導入やまとめで映像資料を積極的に活用することで、児童の興味・関心を高めたり、学習内容を定着させたりしていく。 ○観察の観点を明確にしたり、実験の見通しをもたせたりすることで、観察・実験の技能を高めるようにする。	（中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点） ○動植物の飼育栽培を通して、観察力を培っている。	○科学的に理論立てて理解し、自分の言葉で説明できるようにする。 ○映像・資料を活用して興味関心を高める。 ○NHK for schoolの映像や画像を適切に用いることで、児童の理解を促す。ICTだけでなく、児童の五感で理解できるよう指導内容を工夫する。	○実験器具の扱い方について毎回確認してから実験・観察を行うようにする。 ○実験や観察の目的を明確にして、目的に沿った考察ができるようにする。 ○自身の生活経験などと結び付けながら予想を立て、観察や実験を行い、結果を基に自分自身の言葉で結論付けられるようにする。

⑪-2授業改善推進プラン（中間改善計画）

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	○課題設定、解決方法、学んだことなど、視点を明確にして振り返り、より充実させる。 ○地域の特色を生かした「小山田学習」を充実させ地域の人材を大切にし活用をする。 ○誰がどの学年を担任しても同じ学習内容になるよう、計画を明確に立て記録を残す。 ○「育てたい力」「ねらい」を明確にして、活動のみに終わらせない取り組みとする。	○学習対象との出会わせ方を工夫する。 児童の思いや願いを大切にして、学習を進める。 ○体験や活動をした後に、思ったことや気付いたことを学習カードに書いたり、友達と共有したりする時間を確保し、気付きの質を深めさせる。		
音楽科	○音楽集会や保護者会発表などを通して、人前で演奏する場を設定し、表現力を高める。 ○音楽の基礎・基本の定着を図るために楽典や聴音の小テストを行う。 ○歌う楽しさや喜びを感じることができるようにする。	○多様な音楽を体で感じ、体全体を使って表現する活動を多く設定する。 ○鑑賞では、リズミカルな音楽や情景を思い浮かべやすい音楽等、魅力のある教材を選択する。 ○表現では、友達との関わりを通して自分の思いや願いを表現させるようにする。	○音楽を通してつながり合うことを楽しめるような活動を取り入れる。 ○スモールステップと反復練習により、技能の向上を図る。 ○教え合うことで自己の達成度に関し、気付くことを増やすようにする。	○音楽を通して、つながり合う事を楽しめるような活動を取り入れる。 ○他教科・他分野の知識や既習事項を活動の中に取り入れる。 ○教え合う事で、自己の達成度に関し、気付くことを増やすようにする。
図画工作科	○学年の発達段階に応じてさまざまな題材を設置し材料や道具を経験させる。高学年では材料や道具を児童自身が自分のイメージに合わせて選べるようにする。 ○日常的によさが認め合える鑑賞活動をする。	○楽しく、一人一人の発想が作品づくりに生かされる学習課題を提示する。 ○用具の使い方や、作品づくりの手順を正しく理解させて、作品づくりに取り組ませる。 ○作品を見て感じたことを話したり、友達の話を聞いたりして、形や色、表し方の面白さに気付かせる。	○完成して終わりではなく、そこから自分なりに追求して深めていく姿勢を身に付けるよう児童とかかわる。 ○多くの画材や道具を使いそれらの特性を理解する。 ○班での活動、制作を通してお互いを高め合う。	○完成して終わりではなく、そこから自分なりに追求して深めていく姿勢を身に付けるよう児童とかかわる。 ○制作の意図に合わせて画材や道具を選択し使うことができるようにする。 ○班での活動、制作を通してお互いを高め合う。
家庭科	○自立の基礎として必要な衣食住や家族の生活に関する基礎的な技能を習得させる。また、地球環境とのつながりを考え、生活の中に生かす。 ○用具の安全な使い方や技能の習得に十分時間を確保する。			○学校で学習したことを家庭で実践できるようにする。 （夏休みの課題とする。 ○実習では、一人一人の役割分担を明確にして、技能や理解の定着を図る。 ○小集団活動を多く取り入れ、いろいろな友達と関われるようにする。
体育科	○基本的な体力向上をめざし、毎時間導入時に持久走、鬼遊び、縄跳びに取り組む。 ○学習カードを活用し、児童に単元のめあてをもたせ、振り返りを行い思考力・判断力を向上させる。 ○少人数でのグループ活動などを通し「見合う」時間を充実させ、かかわりあいを多くさせる。 ○各学年の年間授業計画を縦断的に作成し、教材研究や教材の共有を学校全体で行う。	○運動の特性に触れることができるよう、運動内容や場、学習過程を工夫する。 ○スモールステップで技能を身に付けることができるような場や時間を設定する。 ○掲示物や学習カードを活用して、めあてをもって運動に取り組ませる。	○運動の特性に触れることができるよう、運動内容や場、学習過程を工夫する。 ○スモールステップで技能を身に付けることができるような場や時間を設定する。 ○学習カードの活用等を通して、めあてをもって運動に取り組むようにする。	○運動の特性に触れることができるよう、運動内容や場、学習過程を工夫する。 ○スモールステップで技能を身に付けることができるような場や時間を設定する。 ○課題解決的な学習の充実を図る。学習カード等を活用して、課題をつかませる。
外国語科	○Unitの目標表現を歌やチャンツなどを用いて繰り返し発音し慣れ親しませる。 ○英語パフォーマンステストを実施し、児童の目標表現・語句を定着させる。 ○音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かったり、書き写したりできるように活動を工夫する。			○簡単な英語表現を使いながら、ゲームやクイズをする。 ○友達と会話したり、コミュニケーションを取ったりする場面を設ける。 ○ゲームなどで外国語のリズムの楽しさを体験できる活動を繰り返し行い、日本語との違いや面白さに気付けるようにする。

⑪-2授業改善推進プラン（中間改善計画）

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
特別の教科　道徳	○全校として「思いやり」の育成を重点とする。人権教育の研究を生かし、さらに深めながら「礼儀」「友情・信頼」「相互理解・寛容」等を重点的に指導る。道徳的価値について多角的、多面的に話し合い自己の生き方を振り返る学習を目指す。	○児童の身近な生活場面を提示したり、挿絵を黒板に貼りながら読み聞かせをしたり、紙芝居やペープサートにしたりと、教材との出会わせ方を工夫する。 ○具体的な道徳的行為を実際に体験させた上で、道徳的価値の理解を深め、自己を見つめ ることができるようにする。	○アンケート結果や共通体験を用いる、身近な生活の出来事を取り入れるなど、授業の導入部分を工夫し教材や内容項目への関心を高める。 ○心の迷いや変容が分かる板書構成の工夫や、動作化、役割演技などから、友達と意見を出し合い対話や協議することで、多角的多面的な見方や考え方を養う。	○映像や教材を拡大した資料、社会の中の出来事など、児童の知的欲求を満たす資料提示の工夫をすることで、内容項目への関心を高める。 ○心の迷いや変容が分かる板書構成の工夫や、児童のノートの記述を活用した対話や発表などから議論し合い、多角的多面的な見方や考え方を養う。
外国語活動・英語活動	○ねらいを明確にした活動を取り入れ、楽しみながら英語に親しんだり、英語のスキルを身に付けたりできるように、授業展開を工夫する。 ○めあてを達成できる学習活動を行うために、デジタル教材の有効な活用方法を研究し、教具を検討し、指導法の研修を計画的に行う。	○日常生活の中で聞いたことのある英単語を使い、楽しく英語に慣れ親しむことができるような活動を積極的に取り入れていく。 ○英語に親しむことができるように、歌やゲーム活動を取り入れるなど、楽しく学習できる雰囲気をつくっていく。	○実際の場を想定して、友達と英語でのコミュニケーション活動をする機会を設ける。 ○ゆっくり、繰り返し発音練習することやフラッシュカードを用いた活動 を重点的に取り組む。 正 しい発音を身に付けさせ 、自信を深めて活動に参加できるようにする。	
総合的な学習の時間	○地域の人材や施設を活用し、体験的な学習や課題解決学習の充 実を図ることで、自己解決能力・自己実現能力を育成する。		○地域人材を活用したり、体験的活動を行ったりする。また、ICT機器をを適切に活用する技能を高めることで、学習への理解を深める。 ○調べたことの中から、課題に合った情報を選択し、まとめたものをICT機器や思考ツール等を活用して、発表する。	○地域人材を活用し、体験的な活動を通して課題解決していく。 ○ICT 機器を活用し、課題解決に必要な情報を収集させ、効果的な発表の方法を選択して表現させる。
特別活動	○学校生活や学級生活の充実や向上を目指した 活動を展開することで自主的・主体的な実践態度を育成する。	○学級の友達と仲良く活動し、学校生活をより楽しいものにしようとする態度を育てる。 ○話し合いの進め方に沿って、自分の意見を発表し、他者の意見をよく聞き、合意形成して実践することのよさを理解する。 ○基本的な生活習慣や、約束やきまりを守ることの大切さを理解して行動し、生活をよりよくするための目標を決めて実行する。	○友達と協力し合い、学級や学校生活を豊かにしようとする力を育てる。 ○理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見を受け入れたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図り、実践する。 ○自分のよさや役割を自覚し、よく考えて行動するなど節度ある生活を送るための意思決定を行い、実行する。	○よりよい学校生活を築くため、諸活動を自主的に実践しようとする力を育てる。 ○相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図り、実践する。 ○自他のよさを理解し、現在及び将来の生き方について深く考え、意思決定し実行する。